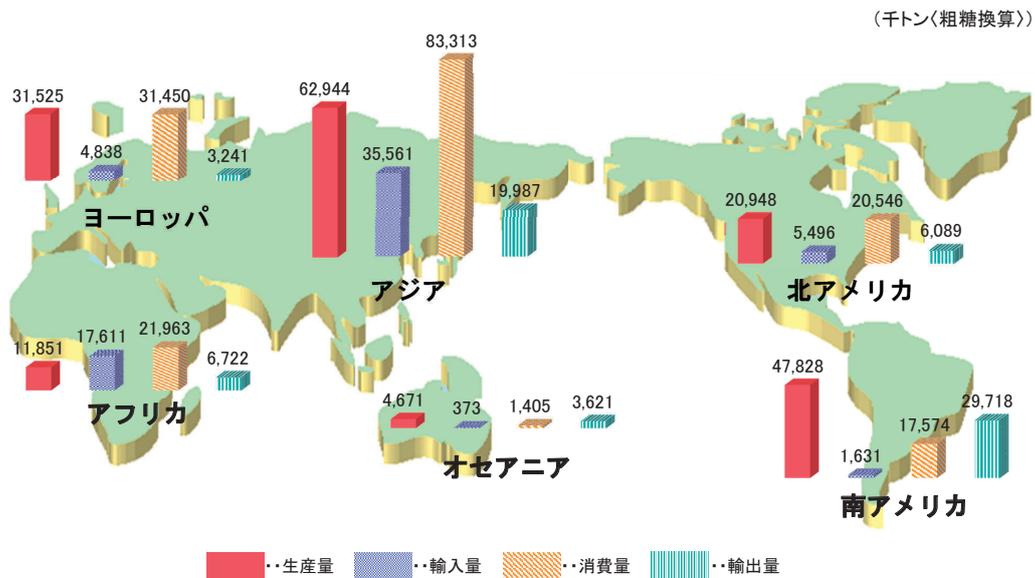


## 砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

### 1. 世界の砂糖需給（2020年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2020」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,030	160,315	56,023	164,749	56,244	50,373	30.6
2014/15	69,133	183,717	59,707	176,663	62,081	73,812	41.8
2015/16	73,812	175,955	67,776	178,653	69,077	69,814	39.1
2016/17	69,814	180,387	70,759	181,308	71,288	68,363	37.7
2017/18	68,363	195,715	65,866	180,367	67,772	81,806	45.4
2018/19	81,806	186,763	61,131	183,163	61,709	84,827	46.3
2019/20 (2020年3月予測)	83,654	176,970	65,022	184,961	66,692	73,994	40.0
2019/20 (2020年6月予測)	84,827	179,767	65,510	176,251	69,378	84,476	47.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2020」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2018/19年度以降は予測値。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。  
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2020年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002250.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002250.html)

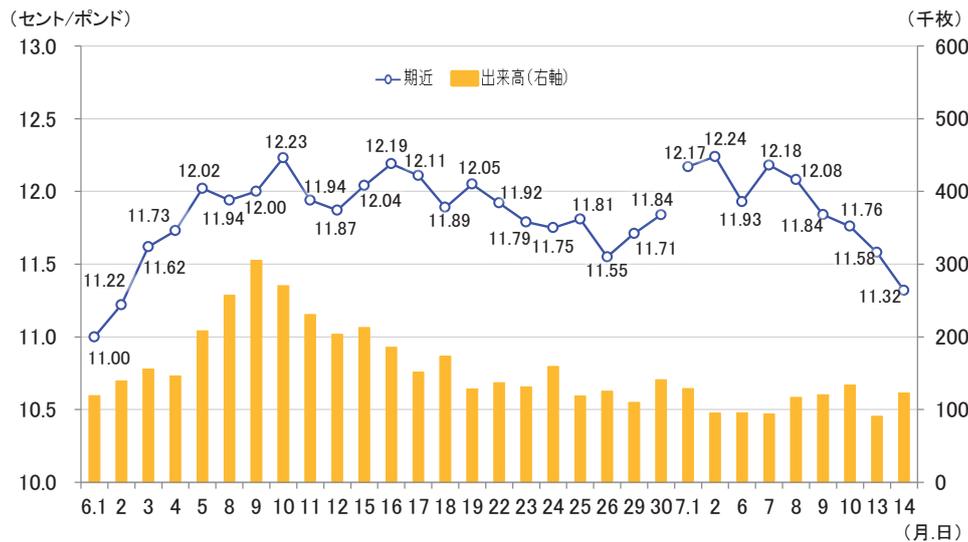
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002251.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002251.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き (6/1 ~ 7/14)

～6月上旬に12セント台まで上昇も、7月中旬以降11セント台へ下落～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：6月は期近7月限、7月は期近10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年6月の推移を見ると（7月限）、1日は、ブラジルにおける新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染者数の急増を背景に砂糖生産や輸出が少なからず影響を受けるとの懸念から、1ポンド当たり11.00セント<sup>（注1）</sup>の値を付けた。その後4日間は原油価格やリアル相場の回復に伴い続伸し<sup>（注2、3）</sup>、5日は同12.02セントと約3カ月ぶりに12セント台に乗せた。8日に一旦、原油価格の下落を受けて同11.94セントまで値を下げたものの、その後は上昇に転じ、10日は、ブラジル製糖業者によるエタノール増産の憶測が市場で広まったことで同12.23セントまで値を上げた。12日は、ブラジル中南部地方における5月後半の砂糖増産発表を受け、同11.87セントまで下落した。15日以降は原油価格の回復に伴い上昇し、16日は同12.19セントの値を付けた。17日以降は原油価格やリアル相場の影響を受けて変動し、19

日は同12.05セントまで上昇した。22日は、雨季の降水量が平年並みと予測されたインドで前年度に比べ砂糖の増産が見込まれることから、同11.92セントと値を下げた。その後は続落し、24日は、原油価格とリアル相場が落ち込んだ影響で、同11.75セントとさらに値を下げた。25日は同11.81セントと小幅に値を上げたものの、インド産糖の増産予測を背景に26日は、同11.55セントと下落に転じた。その後は原油価格の上昇に伴い値が回復し、30日は同11.84セントの値を付けた。

期近限月が10月限に切り替わった7月1日は、同12.17セントと12セント台のスタートとなった。2日は原油価格とリアル相場の上昇を受けて続伸したものの、6日は、米国でCOVID-19が再拡大したことによる砂糖需要の減退懸念から、同11.93セントと下落した。7日は、同12.18セントと12セント台に乗せるも、COVID-19の収束が不透明である

状況などをを受けて8日以降は再び下落に転じ、14日は同11.32セントまで値を下げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替(補填)燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要が上昇すると、その原料作物(サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サ

トウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ることが想定される。食品用途仕向けの割合が小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが高くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すれば、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2020年7月時点予測)

本稿中の為替レートは2020年6月末日TTS相場の値であり、1米ドル=109(108.74)円、1ユーロ=123(122.58)円である。

#### ブラジル

##### 2020/21年度(4月~翌3月)の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積: 860万ha(前年度同)

生産量: 6億4200万トン(前年度同)

###### 【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量: 4236万トン(前年度比33.2%増)

輸出量: 3262万トン(同60.5%増)

#### 2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に増加する見込み

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)の2020年7月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2020/21年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、860万ヘクタール(前年度同、6月予測よりわずかに増加)と横ばいで推移すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、

生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億4200万トン(前年度同、6月予測よりわずかに減少)と横ばいで推移すると見込まれる。

一方で砂糖生産量は、バイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、4236万トン(粗糖換算(以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、前年度比33.2%増、6月予測より減少)と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジル通貨レアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3262万トン(同60.5%増、6月予測より減少)と大幅に増加すると見込まれる。

## 6月の砂糖輸出量、前年同月比95%増

ブラジル経済省によると、同国の6月の砂糖輸出量<sup>(注)</sup>は300万トン（前年同月比95.0%増、前月比13.9%増）と前年同月から大幅に増加した。また、4月から始まった2020/21年度の累計輸出量を見ると、6月末時点で716万トン（前年同期比67.9%増）と前年同期から大幅に増加した。この背景には、国内のエタノール需要の低下やレアル安による収益の増加が、製糖業者の輸出意欲を高めていることが

ある。現地報道によると、同国最大の砂糖生産地サンパウロ州に位置するサントス港では、COVID-19感染者の発生による積荷作業の遅延に加え、5月以降の砂糖輸出量の増加を受けて荷役の滞留が発生し、それを補完すべく同州のサオセバスチャオ港では15年ぶりに砂糖の船積みが行われた。

(注) HSコード1701.14および1701.99の合計。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

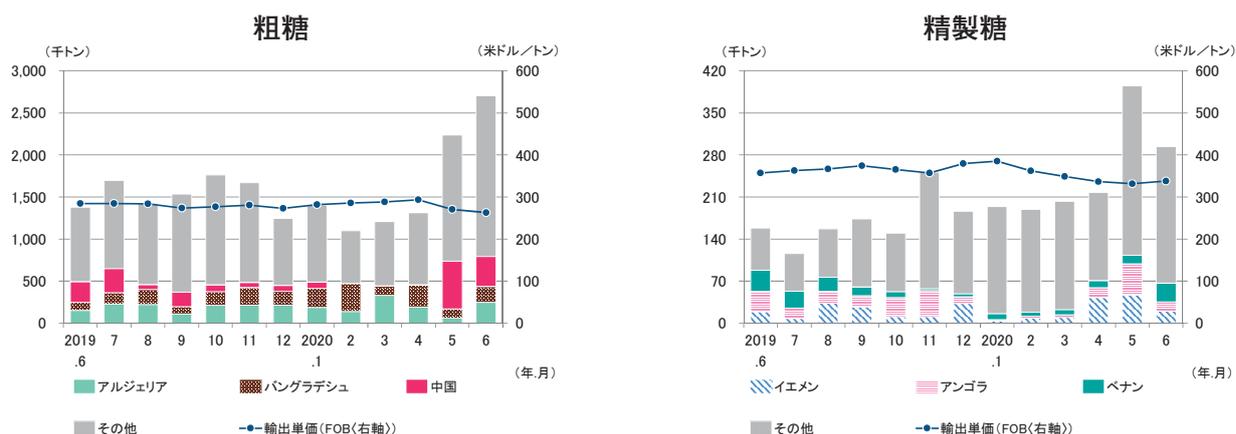
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (6月予測)	2020/21 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,617	8,649	8,601	8,587	8,604	0.0	
サトウキビ生産量	641,066	620,825	641,803	651,000	642,000	0.0	
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,804	42,912	42,363	33.2
	輸入量	2	3	3	3	3	0.0
	消費量	10,852	10,635	10,612	10,385	10,393	▲ 2.1
	輸出量	31,026	21,017	20,323	33,173	32,615	60.5
	期末在庫量	663	239	1,111	508	469	▲ 57.8
	期末在庫率	1.6	0.8	3.6	1.2	1.1	2.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

## インド

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：461万ha（前年度比10.4%減）  
生産量：3億5392万トン（同14.0%減）

#### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：2933万トン（同18.1%減）  
輸出量：741万トン（同34.6%増）

### 2019/20年度、砂糖生産量は減少するものの、輸出量は大幅に増加する見込み

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した豪雨による大規模な圃場の浸水被害などが影響し、2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は461万ヘクタール（前年度比10.4%減、6月予測よりわずかに増加）とかなりの程度減少し、サトウキビ生産量は3億5392万トン（同14.0%減、6月予測より増加）とかなり大きく減少すると見込まれる（表3）。

サトウキビの減産や生育不良による糖度の低下を受け、砂糖生産量は2933万トン（同18.1%減、6月予測より変化なし）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量は、インド通貨ルピーが米ドルに対し安値圏で推移していることや、インド政府による輸出促進政策（同政府は2019/20年度に「砂糖輸出量600万トン」の目標を設定）達成に向けた動きが加速すると見られることから、741万トン（同34.6%増、6月予測より増加）と大幅に増加すると見込まれている。

### 国内最大のサトウキビ生産地にバッタの大群が襲来

インド農業農家福祉省は国内最大のサトウキビ生産地であるウツタル・プラデーシュ州で5月16日から31日の間に、蝗害<sup>こうがい</sup>（注）をもたらすサバクトビバッタが今季初めて確認されたと発表した。同州のほか、ラジャスタン州やパンジャブ州などの北西部や、マハラシュトラ州やグジャラート州などの西部

では、トラクターや消防車のほかドローンの活用により殺虫剤を散布して、虫害の抑制に取り組んでいる。これにより同省は、4月11日から6月26日までの約2カ月半に、12万7225ヘクタールで防除が行われたと発表している。また、7月5日には、インド空軍がラジャスタン州でヘリコプターを出動させ、上空からバッタに殺虫剤を噴霧するなどの追加の防除活動を行ったとのことである。

国連食糧農業機関（FAO）によると、アフリカ東部では、頻繁にサイクロンが発生したため、繁殖環境が良好となったことなどの諸条件が重なったことでおびただしい数のバッタが繁殖しており、過去最大規模ともいえるバッタの襲来が、インド農業に深刻な影響を与える恐れがあると警告している。

同国においては、COVID-19感染者数が世界第3位となる70万人以上に達したほか（7月7日時点）、感染拡大回避策として実行された都市封鎖などによって数百万人もの人々が職を失い、貧困に追い込まれている。感染の広がりを封じ込め、インド経済への影響の軽減を図る同国の第2次モディ政権にとって、バッタの襲来は新たな課題となっている。

（注）相変異（さまざまな生活条件や群れの密度の変化によって、姿と行動が異なる個体を生じること）を起こす一部のバッタ類（トノサマバッタなど）の大量発生による災害のこと。今年に入り、アフリカや中東、インド、南米と世界各地で被害が報告されている。

## エタノール生産によって砂糖80万トン分が削減される見込み

インド製糖協会（ISMA）は6月29日、2019/20エタノール年度（12月～翌11月）において、製糖業者とエタノール製造業者が燃料配給企業と締結したエタノールの売買契約に基づき（エタノール17億リットル）、そのうちの9億2500万リットルが燃料配給企業に納品されたことを公表した。これにより、同国のガソリンへのエタノール混合率は平均5.09%となり、一部の州では混合率が8～9%台に達しているという。

ISMAによると、既に糖みつ（Bモラセス）<sup>(注)</sup>およびサトウキビ由来のエタノール5億8000万リットルが納品されており、同年度末までに2億3000万リットルが新たに生産される見込みであることが

ら、合計で砂糖生産量80万トン分の削減につながると見込んでいる。なお、インド政府は2022年までにガソリンへのエタノール混合率を10%に引き上げる目標を掲げており、来年度には30億～35億リットル（ガソリンへのエタノール混合率7.5～8.0%相当）のエタノール供給を目指している。

(注) 砂糖の製造工程では、搾り汁に煮詰めて結晶化させる。これを遠心分離機で脱水し、砂糖と糖みつを分離する。このとき得られた糖みつをAモラセスと呼び、これにはまだ砂糖が残っているため再度煮詰め、脱水する作業を繰り返す。このとき脱水して取り出した糖みつをBモラセスと呼ぶ。インドでは2018年7月に、サトウキビの搾り汁およびBモラセスを直接バイオエタノール生産に仕向けることが認められた。

表3 インドの砂糖需給の推移

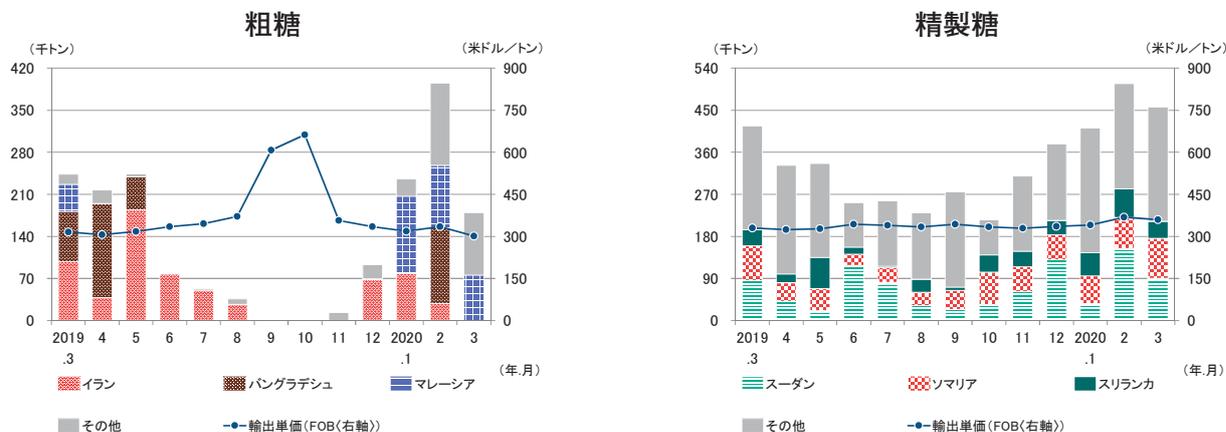
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (6月予測)	2019/20 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,826	5,148	4,610	4,611	▲ 10.4	
サトウキビ生産量	323,556	410,221	411,316	353,878	353,921	▲ 14.0	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,798	29,329	29,329	▲ 18.1
	輸入量	2,536	2,308	664	900	1,100	65.7
	消費量	26,568	27,421	27,540	26,788	26,846	▲ 2.5
	輸出量	2,233	2,361	5,504	6,273	7,405	34.6
	期末在庫量	3,952	11,522	14,940	12,109	11,118	▲ 25.6
	期末在庫率	13.7	38.7	45.2	36.6	32.5	12.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

## 中国

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：118万ha（前年度比3.5%減）

生産量：7769万トン（同1.1%減）

#### 【てん菜】

収穫面積：21万ha（同12.4%減）

生産量：1090万トン（同6.6%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1125万トン（同3.4%減）

輸入量：561万トン（同11.3%増）

### 2019/20年度、輸入量はかなり大きく増加する見込み

2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール（前年度比3.5%減、6月予測より変化なし）とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン（同1.1%減、6月予測より変化なし）とわずかに減少すると見込まれる（表4）。てん菜の主産地である内モンゴル自治区でヨトウムシなどによる害虫被害が発生したことから、てん菜の収穫面積は21万ヘクタール（同12.4%減、6月予測より変化なし）とかなり大きく減少すると見込まれる。生育期間を通じておおむね天候に恵まれ、てん菜の糖分は前年度を上回っているものの、収穫面積の減少分を補うに至らず、てん菜生産量は1090万トン（同6.6%減、6月予測より変化なし）とかなりの程度減少すると見込まれる。

原料の減産に伴い、砂糖生産量は1125万トン（同3.4%減、6月予測より増加）とやや減少すると見込まれる。中央政府による国内の砂糖在庫の増加方針を受け、輸入量は561万トン（同11.3%増、6月予測より減少）とかなり大きく増加すると見込まれる。

### 関税割当枠外で輸入される砂糖について、輸入報告を義務付け

中国商務部は6月29日、輸入報告の管理対象品目に関税割当枠外で輸入される砂糖を7月1日から追加することを発表した。対象となる砂糖は、粗糖、精製糖、香料または着色料が添加された砂糖などである。独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）によると、「対外貿易経営者は、[1]契約締結後、[2]貨物が出港後、[3]貨物の港への到着後、[4]報告事項に変更があった後、それぞれについて要求された期間内に輸入報告が義務付けられている」<sup>(注1)</sup>。商務部は、収集した砂糖の輸入関連情報を半月に1回の頻度でホームページ上に公開するとしている。

現在中国では、砂糖輸入において195万トンの関税割当数量（枠内税率15%）が定められている。関税割当枠外の砂糖については、5月21日まで85%の関税が賦課されていたが、22日から50%に引き下げられ<sup>(注2)</sup>、今回の措置はこれに続くものである。

(注1) 出所：日本貿易振興機構（ジェトロ）ウェブサイト「中国一貿易管理制度一輸入品目規制」

(注2) 詳細は、2020年6月12日付海外情報「関税割当枠外の砂糖への追加関税を撤廃（中国）」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_002725.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002725.html))を参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

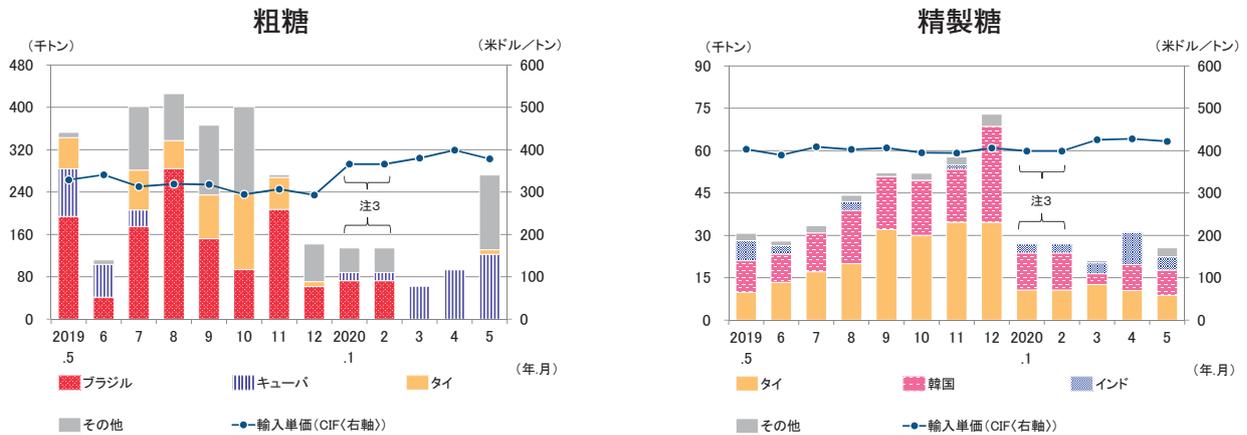
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (6月予測)	2019/20 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5	
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	77,690	77,690	▲ 1.1	
てん菜収穫面積	168	186	243	213	213	▲ 12.4	
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6	
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	11,043	▲ 3.4	
	輸入量	5,715	6,089	5,035	5,815	11.3	
	消費量	16,847	16,414	16,522	15,659	▲ 5.2	
	輸出量	146	182	210	196	▲ 6.8	
	期末在庫量	10,689	11,329	11,271	12,275	12,270	8.9
	期末在庫率	62.9	68.3	67.4	77.4	77.4	10.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署(日本の税関に相当する組織)が公表した1~2月の合計値を等分した。

## E U・英国

### 2019/20年度(10月~翌9月)の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：162万ha(前年度比5.5%減)

生産量：1億1474万トン(同3.3%増)

#### 【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1816万トン(同0.5%減)

輸出量：130万トン(同31.2%減)

### 2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20年度(10月~翌9月)のてん菜の収穫面積は162万ヘクタール(前年度比5.5%減、6月予測よりわずかに増加)とやや減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1474万トン(同3.3%増、6月予測より増加)とやや増加すると見込まれる。

平年より高温・乾燥した状況が続いたEU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜の糖分低下などが響き、砂糖生産量は1816万トン(同0.5%減、6月予測より増加)と横ばいで推移すると見込まれる。輸出量は、生産量が消費量を下回ると予想されることから、130万トン(同31.2%減、6月予測より増加)と大幅に減少すると見込まれる。

## 欧州てん菜生産者連盟、砂糖産業への救済措置を要請

欧州てん菜生産者連盟（CIBE）は6月29日、短期的な砂糖の需給動向を発表した。これによると、COVID-19の拡大抑制を目的とした都市封鎖の実施によって家庭での砂糖消費量が増加傾向にあるものの、外食産業での砂糖需要が減少することで、EUの砂糖消費量は減少すると見込まれる。また、EU域内の砂糖価格は、2020年初の予測に反して参考価格<sup>(注)</sup>（1トン当たり404.4ユーロ（4万9741円））付近まで下落しており、専門家の間では今後参考価格を下回る可能性も示唆されている。砂糖価格の下落によって、EUの砂糖産業は2020/21年度に約16億ユーロ（1968億円）の損失を受けると見込まれる。

2019年10月～翌5月末時点の砂糖輸入量は前年同期と比べて8.4%増加し、輸出量は、主要輸出先国のエジプトが砂糖の輸入を禁止したことから同57%減少した。また、無税枠で輸入した砂糖価格は、国際価格の下落と連動して同350ユーロ（4万3050円）まで下落し、参考価格を下回っている状況にある。

CIBEは、EUの砂糖産業は危機に直面しているため、EU域内の砂糖価格を注視し、参考価格を下回った場合は砂糖産業の保護措置が必要であると訴えた。

(注) 域内の需給均衡の維持を目的に2006/07年度から導入された。市場価格が参考価格を一定期間下回った場合、セーフティネットとして民間在庫補助が実施される。

表5 EU・英国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

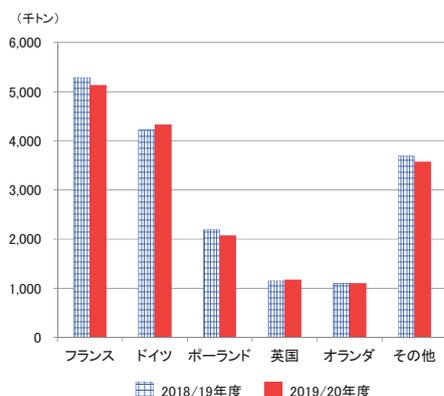
年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (6月予測)	2019/20 (7月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,466	1,731	1,709	1,615	1,616	▲ 5.5
てん菜生産量	107,986	139,453	111,027	114,706	114,739	3.3
砂糖	生産量	17,069	21,734	18,258	18,159	▲ 0.5
	輸入量	3,117	1,731	2,521	2,500	▲ 0.8
	消費量	19,177	19,143	19,371	18,870	▲ 2.7
	輸出量	1,510	3,809	1,895	1,196	▲ 31.2
	期末在庫量	1,969	2,482	1,994	2,565	25.6
	期末在庫率	9.5	10.8	9.4	12.8	12.4

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EU・英国の主要国別砂糖生産見通しおよび国別の生産割合（2020年5月時点）

EU・英国の砂糖生産見通し

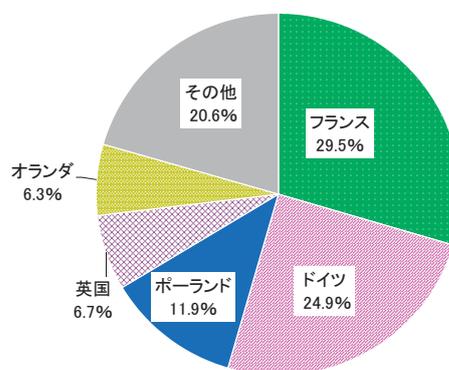


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会

注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

## 4. 日本の主要輸入先国の動向（2020年7月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、南アフリカおよびフィリピンの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（南アフリカは3月号および10月号、フィリピンは4月号および9月号を予定）。

### 豪州

#### 2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）  
生産量：3200万トン（同6.5%増）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：449万トン（同4.7%増）  
輸出量：350万トン（同4.6%増）

### 2020/21年度、砂糖生産量はやや増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減、6月予測より変化なし）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3200万トン（同6.5%増、6月予測より変化なし）とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、449万トン（同4.7%増、6月予測より変化なし）とやや増加すると見込まれる。消費量の落ち込みを輸出促進によって相殺すると予測されることから、輸出量は350万トン（同4.6%増、6月予測より変化なし）とやや増加すると見込まれる。

### サトウキビ栽培における水銀含有農薬の使用禁止が1年後に迫る

6月2日に発出された豪州農薬・動物医薬品局

（APVMA）の告示によると、APVMAは国内での水銀含有農薬の登録を5月26日付で取り消した。水銀は、たとえ低濃度での使用であっても、人の健康や環境に損害を与えることが多くの研究で明らかにされている。1900年代初頭に、水銀は農薬成分として普及したが、1970年代に世界中で中毒事件が続出したことを契機に、ほとんどの国で同農薬の生産や農作物への使用が禁止された。豪州国内においてもほとんどの用途で同農薬の使用が禁止されたが、例外的にクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、西オーストラリア州、北部準州でのサトウキビ栽培にのみ使用が認められていた。

現地報道によると、サトウキビ産業では、約80%の生産者が黒腐病の防除薬剤として同農薬を使用している状況にある。今回の決定を受け、国内での同農薬の生産は終了されるものの、緩和措置として登録取消から1年間は、既存のサトウキビ農家は同農薬を購入し、使用できることとなった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (6月予測)	2020/21 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	376	379	364	361	361	▲ 1.0	
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	32,000	32,000	6.5	
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,283	4,485	4.7	
	輸入量	27	18	20	58	190.0	
	消費量	1,019	1,050	1,053	1,036	▲ 1.6	
	輸出量	3,590	3,562	3,347	3,502	4.6	
	期末在庫量	849	972	875	880	880	0.6
	期末在庫率	18.4	21.1	19.9	19.4	19.4	0.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：156万ha（前年度比15.0%減）

生産量：7489万トン（同42.8%減）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：881万トン（同43.0%減）

輸出量：863万トン（同14.7%減）

### 2019/20年度、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物への転作が活発化したことで、156万ヘクタール（前年度比15.0%減、6月予測より変化なし）とかなり大きく減少すると見込まれている（表7）。加えて、2019年初頭の降雨量が少なく、サトウキビの生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は7489万トン（同42.8%減、6月予測より減少）と大幅に減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は881万トン（同43.0%減、6月予測より増加）と大幅に減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い輸出余力が低下し、輸出量は863万トン（同14.7%減、6月予測より増加）とかなり大きく減少すると見込まれる。

### 新型コロナウイルス感染症の影響で、国内外で砂糖需要が減少

タイ製糖協会（TSMC）は7月4日、国内市場に

おける砂糖需要が落ち込んでいることを公表した。需要減退の原因として、COVID-19の拡大による経済活動の縮小を挙げ、同国ではCOVID-19の感染拡大が収束しつつも、依然多くの国では拡大が継続し、国際市場全体を見ても砂糖需要が減少傾向にあるとしている。また、2019/20年度（10月～翌9月）の6月までの9カ月間における同国の砂糖消費量は169万トンとなり、今後の需要も同程度と仮定した場合、同年度全体の砂糖消費量は225万トンと当初の予測から約10%落ち込む見込みとしている。さらに、2020/21年度の生産量についても、干ばつの影響を受けて生産量が大幅に減少した前年度と同様の傾向が続く見込みとし、同国における製糖産業の厳しい状況を明らかにした。

加えて、今後、タイの製糖業者は製糖事業だけではなく、バイオエタノールやバイオプラスチックなどの付加価値の高い事業にも取り組むことが必要であると述べている。

表7 タイの砂糖需給の推移

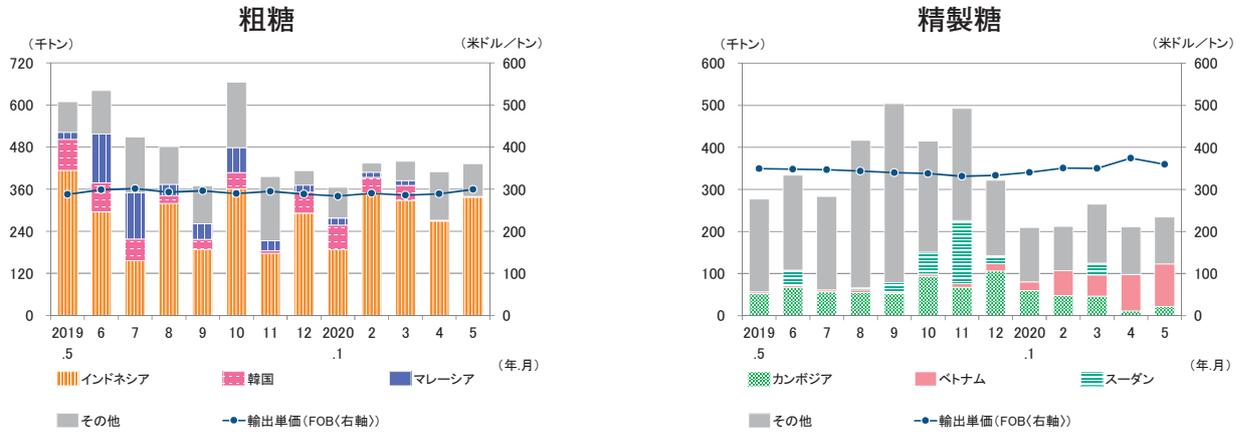
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (6月予測)	2019/20 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,790	1,835	1,560	1,560	▲ 15.0	
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	75,000	74,893	▲ 42.8	
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	8,781	8,807	▲ 43.0
	輸入量	0	5	3	3	3	▲ 4.6
	消費量	3,283	3,434	3,737	3,611	3,557	▲ 4.8
	輸出量	7,393	9,820	10,113	8,603	8,629	▲ 14.7
	期末在庫量	3,951	6,289	7,899	4,469	4,523	▲ 42.7
	期末在庫率	37.0	47.4	57.0	36.6	37.1	19.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。